

内藤 修



## 原材料価格の高騰により 街の洋菓子店の倒産が急増

街の洋菓子店の倒産が急増しています。「街のケーキ屋さん」を中心とした洋菓子店の2024年の倒産件数（負債1000万円以上、法的整理）は、5月までに合計18件発生しました。2000年以降で最も多かった2019年（49件）を上回るペースで推移しています。

洋菓子店の倒産は閑散期となる夏以降に増加しやすく、2024年の倒産件数は過去最多を更新する可能性もあります。

### 知名度向上で事業拡大したケーキハウス・ミサワ

創業60年の老舗洋菓子店を運営していた「ケーキハウス・ミサワ」（山梨県）は、3月29日に甲府地裁より破産手続き開始決定を受けました。同社は1965年、代表の父が前職での経験を活かしてケーキ製造小売りを目的に個人創業し、その後1995年11月に対外関係を考慮して法人改組されました。

この間の1994年に放映されたテレビ番組の「ケーキ職人選手権」において、すでに経営を引き継いでいた代表が優勝して知名度が向上。原材料にこだわった高級洋菓子を中心に切り揃え、業界関係者の間で「技術的に完成されている」との評価も受けていました。

2002年には住宅地区に新店舗を移転し、店舗面積や駐車場も広げて以降売上げを伸ばし、2006年7月期には年売上高1億5000万円を上げていました。

知名度の向上を受けて県外からの来店客も多

かったものの、次第に減少に転じていきました。大手チェーンとの競合も激しく、固定客が離れるなど業況はジリ貧をたどったのです。

新店舗開設に伴う設備投資負担も重く、2008年には金融機関の借入金がサービサー（債権回収会社）に売却されるなど、余裕のない資金繰りが続きました。

その後もヒット商品は生まれず、2021年7月期の年売上高は4000万円にとどまっていた。原材料価格の高騰も重なるなか、先行きの見通しが立たなくなり、ここにきて事業継続断念に追い込まれました。

### 収束の兆しが見えない原材料の値上げラッシュ

街の洋菓子店を取り巻く経営環境は、しばらく厳しい状況が続きそうです。輸入レーズンや小麦粉など、さらなるコスト増が見込まれる食材もあり、原材料の“値上げラッシュ”は収束の兆しが見えません。洋菓子づくりに欠かせないチョコレートは、カカオ豆の不作に加えて円安の影響も加わり、輸入品の平均価格は5年前の約2倍に上昇しました。

原材料価格の高騰のみならず、足元で進む電気代や人件費の増加も、経営の重荷となっています。客離れへの懸念から十分な価格転嫁が難しい店もあり、やむなく閉業の決断をした店も少なくありません。今後は原材料や販売価格の見直しなど、急速に変化する事業環境への対応力がこれまで以上に問われています。 ▲

### ないとう おさむ

2000年に帝国データバンク入社。本社情報部、産業調査部、東京支社情報部、横浜支店情報部、情報統括部情報取材課長を経て、23年10月より現職。入社以来一貫して、倒産企業の取材、倒産動向のマクロ分析を手がける。専門は、倒産動向分析、企業再生研究。